

森山小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①聴き合い、伝え合う力を伸ばす支援の在り方
- ②学校と家庭との連携による家庭学習習慣の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長: 多田美穂	低学年	岡 絵莉菜
羽田 涼		教頭: 藤井誠治	中学年	阿部 智代
			高学年	川真田健人

校長

多田 美穂

【小中連携または中高連携における共通の取組】

主体的・対話的に学び合う学習の中で粘り強く持続的に取り組む態度を養う。

【各校における実行プランの取組状況の把握について】

管理職による授業参観や授業研究、教員からの報告等により取り組み状況の把握を行う。

◎次の(1)~(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○スモールステップのミニテストにより意欲の持続が図られ基礎的な力の習得については一定の成果が見られる。 ●基礎的・基本的内容が多くなるにしたがって、個人差が大きくなり定着が難しくなる傾向が見られる。	・基礎学習に集中して取り組み、言語や計算の基礎的、基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。	・立腰タイム、「授業の約束これだけは」の共通理解を図り、全校体制で継続し、学習に向かう集団の確かな土台づくりを図る。 ・スモールステップのぐんぐんテストやタブレットを活用したドリル学習を継続して行う。また、熟語や同音異義語、短文作りを加える。	・引き続き、スモールステップのぐんぐんテストやタブレットを活用したドリル学習を継続して行う。また、熟語や同音異義語にふれさせたり、短文を作ったりする。		

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○スピーチ力が高まり、他者の考えにつなげて、自分の考えを話そうとする児童が増えてきている。 ●課題解決に向けて、じっくりと思考・判断したり、自分の考えをまとめ、分かりやすく表現したりすることには、二極化傾向が見られ、苦手な子が多い。	・目的意識を持って話を聞き、友達の意見につなげて、自分の意見を発表することができる。 ・学習したことについて、教師の説明や友達の考え、自らの学びをふまえて、まとめの文章を書くことができる。	・相手意識をもって話す、目的意識をもって聞くことができるよう、観点を明示したり司会のマニュアルを作成するなど、話し合いの組織化を図る。 ・授業の中で「なぜ」「どうして」と尋ね、児童の発言を板書することで、児童が考えの根拠や自分の考えがどのように再構築されたのかの筋道を示しやすくさせる。	・相手意識をもって話す、目的意識をもって聞くことができるよう、観点を明示したりするとともに、常掲している「話し方の手引き」を参考にさせるなど、話し合いの組織化を図る。 ・週1回以上、理由を考え記述することを含めた自力解決の時間をとる。		

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題にはまじめに取り組むことができる割合が高まっている。 ●家庭学習における丁寧さや正確さ、読書の習慣化に課題がある。 苦手なことや分からない課題に対して、粘り強く取り組むことができない。	・自分でめあてを立て、主体的に学習や読書に取り組むことができる。 ・苦手な事や難しい課題に対しても、粘り強く丁寧に取り組むことができる。	・「家庭学習の手引き」「自主学習の進め方」をもとに、めあてをもった学習や読書の習慣化の確立を図らせる。 ・外部図書館との連携や読み聞かせなど読書活動を工夫し、読書環境を整える。 ・家庭学習への取り組みやゲーム時間等について、学年だよりで取り上げ、家庭への啓発を図る。			

令和5年度 学力向上ロードマップ

